

第6回日本医療研究開発大賞受賞者（1）

賞名	受賞者団体・受賞者名	タイトル	受賞のポイント
内閣総理大臣賞	第一三共株式会社	DXd-ADC技術（革新的抗体薬物複合体技術）の開発による新規がん治療薬の創製	DXd-ADC技術を開発し、乳がん等に強力な効果を示す新規がん治療薬トラスツズマブデルクステカンを創製した。本技術を適用した他の5つの新規がん治療薬候補の開発も進行中で、がん治療への更なる貢献が期待できる。
健康・医療戦略担当大臣賞	塩野義製薬株式会社 株式会社AdvanSentinel 北島 正章 （北海道大学 大学院工学研究院 准教授）	新型コロナに対する下水疫学調査の実装	下水中の新型コロナウイルスの高感度検出・変異解析技術を開発し、下水疫学調査の実用化を実現するとともに、自治体等における本技術の実装により感染実態把握と感染拡大防止対策に貢献した。
文部科学大臣賞	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門	重粒子線治療の研究開発と普及	革新的ながん治療法である重粒子線治療の研究開発を世界に先駆けて行い、多くのがん疾患に対する有用性が確認され保険適用化された。日本発の革新的な治療法であり国際的にも普及が進んでいる。
厚生労働大臣賞	株式会社メディカロイド	手術支援ロボット「hinotori™ サージカルロボットシステム」の開発	国内外の医療従事者からの要望やアイデアを日本の産業用ロボット技術を活用することで実現し、国産で初めて手術支援ロボットシステムの量産化に成功した。
経済産業大臣賞	株式会社トプコン	眼科用光干渉断層計の研究開発と実用化及び普及	従来の眼底カメラの平面情報に加え、眼底の高精細な3次元立体像（断層情報）を非侵襲で撮影できるOCT装置を開発。緑内障等の眼疾患の早期発見および疾患管理に極めて有用な診断装置となり、眼科医療への急速な普及が進み、患者のQuality of Visionの維持に貢献した。

第6回日本医療研究開発大賞受賞者（2）

賞名	受賞者団体・受賞者名	タイトル	受賞のポイント
スタートアップ賞 （健康・医療戦略担当大臣表彰）	Chordia Therapeutics株式会社	RNA制御ストレスを標的とした抗がん薬の開発	新たに発見されたがんの特徴の一つであるRNA制御ストレスを標的とした研究から生まれた低分子抗がん薬（リードアセットCTX-712）は、世界に先駆けて日本で第1相臨床試験を実施中。今後のがん治療における新たな選択肢となることが期待される。
スタートアップ奨励賞 （ファイナリスト）	株式会社Luxonus	新たな画像診断装置（光超音波イメージング）の開発	無被ばくかつ造影剤なしで、これまで画像化が難しかった微細な血管像を短時間で可視化する光超音波イ3Dイメージング装置の開発に成功し、本邦初の新原理に基づく医療機器製造販売承認を取得した。
スタートアップ奨励賞 （ファイナリスト）	ジャパンメディカルデバイス株式会社	デジタル技術を駆使した心臓再現と個別化医療	スーパーコンピュータを活用して研究開発されてきた心臓シミュレータについて、品質・性能改善、サービス提供の仕組構築、薬事承認対応等、実用化・事業化に向けて取り組んでおり、デジタル技術を活用し、心疾患に対する個別化医療に貢献することが期待される。
スタートアップ奨励賞 （ファイナリスト）	株式会社Magic Shields	転倒による大腿骨骨折対策床「ころやわ」の社会実装	年25万人超が苦しむ大腿骨頸部/転子部骨折に着目し、病院・福祉施設のベッドサイドに置くだけで転倒骨折リスクを減らす床「ころやわ」を開発。普段は固く歩きやすいのに、転んだ時には座屈する日本発の「可変剛性構造体」を用いたメカニカルブロックで、転倒時の骨折率を大幅に改善できる可能性を示した。
スタートアップ奨励賞 （ファイナリスト）	Axcelead Drug Discovery Partners株式会社	革新的な技術基盤を活かした多様な創薬プロジェクトへの貢献	創薬プラットフォームとして基礎から臨床応用まで多様な創薬プレイヤーの研究推進に貢献している。製薬企業・ベンチャー・アカデミア・公的研究機関を含め、設立以来200社以上の取引実績がある。特に製薬企業のリピート率は約90%と当社のビジネスに信頼と期待が寄せられている。また、AMEDの創薬支援推進事業にも参画し、アカデミアシーズを製薬企業に橋渡しする研究支援に寄与した。
スタートアップ奨励賞 （ファイナリスト）	株式会社アイ・ブレインサイエンス	【医療DX】見るだけの認知機能評価アプリの開発	社会的な課題である認知症の急増に対応すべく、視線情報を活用した認知機能評価アプリを開発し、医療機器ソフトウェアとして実用化を進めている。認知症の発症・重症化予防のための早期診断の拡大、患者のストレス軽減、医療従事者の負担軽減につながることを期待される。

日本医療研究開発大賞受賞者（3）

賞名	受賞者団体・受賞者名	タイトル	受賞のポイント
AMED理事長賞	江島 広貴 （東京大学 大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻 准教授）	水生生物の接着機構にヒントを得た生体組織接着剤の研究開発	海洋生物の接着機構にヒントを得て、高強度水中接着剤の開発に成功した。本接着剤は湿潤環境下でも強い接着力を発揮するため、手術用接着剤などへの応用が期待される。
AMED理事長賞	塩飽 裕紀 （東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野 テニユアトラック准教授）	統合失調症の原因解明と新しい治療法の創出につながる、シナプス分子に対する新規自己抗体の発見	統合失調症と診断された患者から脳のシナプスタンパク質への自己抗体を発見し、病態解明および治療への手掛かりを得た。統合失調症患者に対する新たな治療法や、早期発見・治療への展開が期待される。
AMED理事長賞	高木 聡 （公益財団法人がん研究会がん化学療法センター 基礎研究部 研究員）	脂質メディエータ受容体を標的とした骨肉腫の増殖・転移を阻害する新治療法の開発	約40年間も新薬が承認されていない骨肉腫について、肺転移機構を解明し、骨肉腫の増殖や転移を阻害するための治療標的を見出した。独自のモダリティ開発も進めるなど、治療薬開発への応用が期待される。
AMED理事長賞	武内 俊樹 （慶應義塾大学 医学部 小児科学教室 専任講師）	「社会共創」の観点を重視した研究開発とゲノム解析による新生児・小児医療への貢献	全国規模の拠点ネットワークを構築し、ゲノム解析による重症新生児への診断・治療に貢献する他、新規の先天異常症候群「武内・小崎症候群」を報告し、データシェアリングにより 国内だけでなく海外の患児の確定診断に至った。
AMED理事長賞	星野 歩子 （東京大学先端科学技術研究センター 細胞連関医科学分野 教授）	エクソソーム含有タンパク質をパラメーターとした健康長寿とアルツハイマー病マーカーの解明	アルツハイマー病患者と健康者では血中エクソソーム*のタンパク質組成が異なることを明らかにした。同疾患の早期診断のためのバイオマーカーとしての臨床応用が期待される。